

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 30日

事業所名 放課後等デイサービスはなまる神埼教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・十分な広さと目的に合わせたスペースである。 ・活動によっては、もっと広いスペースがあれば良いと感じることがあるが、遊びの時間制限やルールを設けたり変えたりして子どもたちと活動を工夫することにもつながっている。 ・活動内容によっては狭いと感じる場合もあるが、概ね足りていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね必要なスペースは確保できているが、収納の工夫や動線に合わせた環境構成、感覚過敏や一人の時間を求める児童に配慮した空間づくりが必要だと思われる。 ・この空間でできる活動を考えて取り組んでいるので、今後も留意する。
	2	職員の配置数は適切である	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児2名につき職員1名を配置し、手厚い体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時、傍での支援が必要な子どもの利用時には配置数を考慮する必要がある。手厚い支援が必要になる場面や時間帯など、利用計画をもとに人員配置していく。 ・日々の配置は足りているが、シフト調整の中で足りないと感じることがある。待機する資格者と送迎との兼ね合いや、利用状況に応じた人員配置を心がけると共に、職員の勤務状況にも配慮したい。

	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の段差はほぼなく、現在の利用児は不自由していないと思われる。 ・該当する利用者がいないため今のところ手すり等の設置はしていないが、必要に応じて検討・改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドア部分や床の敷物のつなぎ目の引っ掛かりが気になる。敷物の素材や形状に留意しつつ、気になる箇所は布テープでつなぎ目をカバーする等の修繕をしていく。 ・段差等に問題はないが、子どもたちの咄嗟の動きでドアや棚などに危険を感じることもあり、見守りや声かけを要するので、転倒防止用品の活用や環境構成の見直し等を検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の現状の情報共有から問題行動、困り感を知り配慮できている。 ・月1回の定期的なミーティング時に行っている。情報の共有や意識の統一を図っている。 ・日々の情報共有や振り返りにより、職員の意識は常に前向きであると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてPDCA実践シートなどを用いて、より現状の課題や問題点、不足しているものをクリアにしていきたい。 ・状況は刻一刻と変化するので、柔軟な対応と情報収集に留意する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見があれば、可能な限り早めの対応をしている。 ・保護者からの意向についてはその都度検討しできるかぎりの対応をしている。 ・ミーティング時に必ず行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や他事業所との連携、情報収集が必要な対応の場合は、保護者が安心して解答を待てるように経過報告を行う等の配慮をする。 ・今後も現状を維持しつつ、改善すべきは速やかに改善していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の見やすい場所に掲示している。 ・毎年、結果を保護者へ配布している。 ・メッセージアプリのメニュー欄にていつでも確認できるようにするなど、時代に合わせた情報提供の方法できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは公開されている場所が限定的だった。今年度ホームページやSNSアカウントも作成したので、今後はそちらでも公開をしていきたい。

7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			9	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する保護者から、子どもについてあまり公に話したくないという声もある。 ・現在は、第三者による外部評価は行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに実施されている事業所のやり方や留意点など、情報を収集しながら今後検討していくことと思われる。 ・この分野での有識者に依頼するのはどうかという意見が出ているので検討中である。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1		<ul style="list-style-type: none"> ・常に行っている。 ・積極的に参加できている。 ・積極的に研修機会を設けている。 ・受講内容について、ミーティング時に報告し、職員全体への情報共有、周知に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加者からの情報共有や報告等もされており、全体研修の機会も設けられているが、さらに幅を広げていく必要がある。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントは主に児発管が担っているが、全職員で検討と確認をしてサービス計画を作成している。 ・利用児や保護者のニーズや課題について全職員で検討、確認を行い、担当者が適切なサービス計画の作成を行っている。サービス計画についての周知もできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児や保護者のニーズや課題をさらに十分に反映させるうえでの認識が個人的にできていないと感じている職員もいるので、定期的に事例検討会の開催を計画していく。
10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたツールについては状況把握に役立っている。参考に出来るものについては利用している。 ・保護者さんとの協力がスムーズにできるよう働きかけている。 ・必要なアセスメントツールを選択し、適切な使用を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントツールについては、今後も必要となった際には適切なものを使用していくこととする。アセスメントツールについての情報収集を行う。 ・保護者へ提出の協力をお願いする。

11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児たちの様子や気づきの中から活動内容を考えたり、季節の行事を考慮したりしながら、職員の提案を加えて立案している。 ・全職員の提案により、各領域も考慮しながら活動プログラムを作成している。ミーティング時には内容の確認等も行っている。 ・全職員で活動の計画を行っている。 ・前月に、翌月の活動計画の立案を行っている。 ・スタッフ間で利用児の様子を見つ、リアルタイムな出来事(学校の授業で習っていること)で活動を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの職員の提案がより積極的に出されることで、活動の幅が広がると思う。 ・現時点では、担当の職員が各自で活動の立案を行っている(ように思える)。チームで全体での取り組みを意識できるような立案、計画を行いたい。 ・主任保育士が中心となり立案している。今後はそれぞれの職員が専門分野や得意な事、気になる事、利用児に経験してほしい事などをもっと積極的に提案、実践していけるようにしたい。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			<ul style="list-style-type: none"> ・毎月工夫検討されている。 ・各療育項目を考えながら、利用児が楽しんで意欲的に取り組める内容になるための工夫をしている。 ・SNSやインターネットを通して情報が多く得られるようになり、スタッフ間の意見も出てきていて取り入れやすくなった。 ・利用児の個別配慮を取り入れながらできている。 ・社会に出る前に、自立していくうえで大切なことを活動を通して沢山の経験ができるように心がけている。 ・心や感情のコントロールの方法、リラックスする方法を提案している。 ・子どもたちが主体的となって話し合う機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していくことで意義があるプログラムについては固定化もあるが、子どもたちの興味、関心、自立のために必要と思われること等を考慮したプログラムを工夫していく。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の場であることを前提にしながら、利用児の興味や関心を考慮して、日々の課題を設定している。 ・平日では時間の関係上むずかしい買い物訓練やクッキングなど自立に向けた活動を計画し、支援している。 ・利用児の意向、興味、関心や療育の目標等を考慮しながら、色々な体験や経験の機会が提供できるような課題設定をしている。 	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の心身の状況を把握、考慮して。無理せず参加できるような個別活動や集団活動の計画と工夫をしている。 ・アセスメントツールやモニタリング時に得た情報、計画に設定した目標を考慮したものになるように努めている。 	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日行っている。 ・活動内容を確認し、役割分担についても話し合いを行っている。 ・支援内容の確認、職員の動きの分担等、支援前には必ず行っている。 ・活動や支援についての細かい打ち合わせは、日々話し合い、確認を行っている。 ・出勤後の打ち合わせや情報共有の時間に報告等している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の都合により打ち合わせに参加できていない職員もいるので、情報共有の仕方に工夫が必要。（ノートの活用など）

16	<p>支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している</p>	3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・翌日に行っている。 ・支援終了後は時間制約があり、振り返りができないこともあるが、翌日など出勤時の情報共有で行っている。 ・活動終了後に振り返りを行う事は難しいが、翌日気付き等の話し合いや対応の検討、意識の共有をしている。 ・支援終了後すぐに全職員で振り返りを行うことはできないが、気づきや感想を言い合っ次活動をより良いものにする工夫をしている。 ・その日のうちに…は難しい状況である。 ・支援終了後の気づき等は正職員に報告し、翌月にパート職員への共有はできているかと思う。休日が続いた場合の共有漏れに注意。 ・毎日の振り返りは送迎から戻る時間が違うため難しいが、できるだけ振り返りや情報共有をしている。 ・送迎の待機時間などで、気づきや対応の仕方の検討等をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日中に連絡や報告、相談すべき内容がある場合は話し合いの時間を設けたり、記録ノートや連絡ツールを用いて迅速な対応を心がけるようにしたい。
17	<p>日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている</p>	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況や行動、対応の仕方、気づき等を記録ノートに記載して職員間の周知を行っている。 ・活動内容、ねらい、気づき等を記録し、支援の向上を図っている。 ・利用児の連絡帳にて、当日の細やかな様子を記録し、保管している。また、いつでも内容を確認できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が十分にできているとは言えず、今後取り組んでいきたいと思う。 ・活動を担当した職員が、日々の活動記録に記入している。担当職員以外にも、他の職員から意見や気づきがある場合はそちらも記入している。

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況把握には職員も参加している。 ・定期的なモニタリングは児発管が行っているが、サービス計画の見直しについては、全職員が確認、周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な視点での情報や支援の提案ができるように定期的に事例検討会の開催を計画していく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・基本活動を考慮し、組み合わせさせて立案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は5領域に沿った計画や支援となるので、職員の資質向上に努めつつ、利用児の姿を丁寧に捉え、本人の思いを反映させた内容となるようにしたい。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	3			<ul style="list-style-type: none"> ・現在は主に児発管のみが参画しているが、指導員等も会議に参加できるようにしたいと考えている。ただし、会議の開催時期や時間帯によっては現場の人員も考慮しなければならないので、そのためにはそれぞれの機関に協力してもらう必要もある。
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9			<ul style="list-style-type: none"> ・主に児発管等の担当者が担っているが、送迎時に得た情報等も報告し、全職員が周知できるようにしている。 ・送迎時に職員が利用児の様子や学校での取り組みを聞いて情報共有や支援方法の統一を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度必要な時に速やかに行う。 ・お互いにどこまで干渉していいのかわからず、連携に難しさを感じている。また、放課後等デイサービスのことを子どもを取り巻く環境のひとつとしてではなく、『保護者が契約した』『保護者とのやり取りだけで済ませてほしい』と考え、学校との連携を重視していない所もある。市町村との連携を図り、地域全体で取り組めるように働きかけたい。

関係機関や保護者と	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所には現在医療ケアが必要な児童は在籍しており、今後の受け入れの予定もない。 ・服薬については利用児の様子観察を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では行っていないが、もしもの場合の対策を検討していきたい。 ・医療ケアが必要ではないものの、服薬をしたり、病弱・身体虚弱などで個別の配慮が必要だったりする利用児は在籍しているので、今後は保護者を通して連絡体制をしっかりと整えていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	5		<ul style="list-style-type: none"> ・電話にて情報共有を行っている。 ・相談支援専門員の働きかけにより、移行支援会議の開催もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末は園も多忙な為、時期を考慮しながら情報共有の機会を作っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では該当者なし。 ・利用を終了した際は、その後の様子を保護者を通して聞いてみたり、他事業所や福祉サービスから情報提供を求められた場合は協力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後対象者がいた場合には対応したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・療育支援センターの研修を受講するようにしている。 ・放デイ連絡協議会に参加し、専門機関とのつながりがもてるようにしている。 ・保護者を通じて専門機関の情報をいただき、放デイの支援に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もより一層研修の受講機会を増やし、強化していきたい。

の 連 携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	4	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や公共施設を利用する際に、自然な交流が生まれることもある。 ・公園や出かけた先で他人と一緒に遊ぶことができる。 ・施設外での活動時に、障がいのない子どもたちとの交流を持つことがある。 ・子ども食堂への参加を行っており、その参加者との交流ができた。 ・保護者の意向もあり、利用を知られたくない方も多いため、敢えて盛んには実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園では、利用時以外の他児との交流ができる機会があったので、今後も活動に取り入れていければと思う。 ・主に土、祝日が機会が多いので、長期休み時や特別校時で早く下校した日などに事業所外での活動や交流ができるように立案していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への協議会には参加しておらず、今後の課題である。 ・放デイの連絡協議会に参加し、集会を通して市役所や教育委員会、支援センターの方たちと話をする機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神崎市からの案内、情報等の発信がないように思えた。来年度の取り組み案がでていこうと思う。 ・今つながりがあるのは佐賀市や上峰町のみなので、利用児が住んでいる他地域とも連携を図っていきたい。

28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に保護者へ子どもの様子を伝えたり、保護者からの意向や要望を聞いている。内容については職員でも共通理解を図っている。 ・保護者－事業所間でメッセージアプリ(公式LINE)が繋がったことにより、すぐに連絡事項を伝えられるようになった。また、子どもの様子を連絡帳だけでなく活動中の姿の写真を一言添えて送っている。 ・メッセージアプリの使用により、保護者だけに伝えたいことへの配慮もできるようになった。 ・連絡帳を活用したり、直接電話やLINEで連絡と報告をし合ったり、送迎時に保護者からの意向や要望を聞く等、共通理解に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・把握漏れがないような周知の方法を検討していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳等を使ってで保護者の心情に寄り添うことに努めている。 ・『はなまるカフェ(父母の会)』にて情報交換や支援方法の共有など対応している。 ・職員間で情報共有をしながら保護者に伝えている。 ・『はなまるカフェ』を開催し、保護者間の交流を図ったり、保護者の思いを汲み取る活動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、父母の会の開催にあたり、様々な知識や情報にふれることができる機会をつくっていけるよう計画していきたい。

保護者	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			<ul style="list-style-type: none"> ・見学時、契約時に説明を行っている。施設見学や子どもたちの様子を見ていただくことで理解を得たり事業所内の雰囲気を感じてもらえたりするように心がけている。 ・利用開始後も必要に応じて適宜担当者より詳細な説明を行っている。 	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			<ul style="list-style-type: none"> ・都度電話や連絡帳にて対応し、必要時は面会での相談にも対応している。関係機関と連携もとっている。 ・その都度、様々な形で保護者に寄り添った対応を心がけている。 ・『はなまるカフェ』にて対応している。 ・必要に応じて面談を提案している。 	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は開催できた。保護者同士の交流や情報交換、他の家庭の話を聞きながら自分自身の振り返りの場となった…という声をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ漠然と呼びかけるだけでなく、集いの意図や目的を発信したり、保護者が興味を持てる内容を企画したりできればと思う。 ・気分転換の場としても提供していきたい。 ・開催時期によっては、気候や学校行事、感染症の流行などで開催を見送ったこともあるので今後は留意していく。

への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9			・苦情に対応する研修報告等で職員の意識向上を図っている。適切な対応も行われている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			・毎月、活動内容や連絡事項を発信している。 ・メッセージアプリやSNSの運営等で保護者が確認しやすい環境を目指しながら情報発信をしている。	・今後も活用していきたい。 ・SNSやアプリの活用方法を知る。
	35	個人情報に十分注意している	9			・全職員が厳重な守秘義務を意識し、個人情報記載物には最新の注意を払っている。 ・守秘義務は十分に意識できている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	2		・伝え方の工夫はしている。 ・必要に応じて個別での対応を行っている。	・伝え方の工夫やアイデアなどを職員同士で話し合いながら実践していきたい。

非常	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が招待するようなイベントや行事は行っていないが、代わりに地域のイベントに参加して交流を図ったり、地域ボランティアのお宅に訪問して社会のマナーについて学ぶ機会を設けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を招待することは行っていないが、今後は地域の老人施設などの訪問を計画したいと考えている。 ・利用する保護者から、子どもについてあまり公にしたくないという声もある。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・公式LINEのメニューでも対応している。 ・SNSやメッセージアプリでの周知を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内に掲示している。 ・年間計画の中に職員全体で検討や見直し、周知を図る機会を設けることにしている。 ・全保護者への周知を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行っている。 ・年に数回、子どもたちと身を守るための訓練をしている。 ・定期的な訓練や、DVDを使った子どもたちの意識づけも行っている。 ・防災セットを準備し、定期的に点検している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水難、火災、地震、不審者侵入等の様々な緊急事態に対して利用児を含む訓練も必要かと考える。 ・一部避難経路がふさがっている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の定例ミーティングにて適切に対応している。 ・全職員が参加できるように研修の機会を設け、日頃の対応の見直しや対応の工夫、意識の向上などを図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止についてのマニュアルを見直したり、技術や知識の向上に努めたい。

時 等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時や計画書での記載等にて説明を行い同意を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束に関する知識や情報収集をし、職員間での周知を徹底する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの情報により、配慮が必要な時は対応している。 ・食育の活動時には慎重な対応も行っている。 ・おやつ提供時には考慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育をテーマにした活動の機会が増えているので、今後も一層慎重に対応していかなければいけないと思われる。 ・契約時や新学期に記入してもらうアセスメントシートの内容を見直し、アレルギーをはじめとする体質についての情報欄を設け、情報共有と周知徹底を図っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング時に報告書をもとに情報を共有、周知している。 ・事例をもとに、環境構成や支援方法の見直し等も行っている。対応の改善や工夫等を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的な行動や、自分の気持ちの表現方法として、他者に危害を及ぼしてしまう可能性のある子どもが増えつつあり、ヒヤリハットの作成で対応の仕方や意識の共有を図っていく必要がある。 ・事業所での情報共有はもちろん、保護者にも伝えていき共通理解を図っていきたい。